

# 行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察

平成30年10月22日(月)～23日(火)

|                   |                       |                                       |
|-------------------|-----------------------|---------------------------------------|
| 視察先<br>及び<br>視察事項 | ・平成30年10月22日(月)       | 1 市役所新庁舎の建設について                       |
|                   | 群馬県富岡市                | (1) 新庁舎建設の経過について                      |
|                   |                       | (2) 新庁舎の耐震・免震対策について                   |
|                   |                       | (3) 新庁舎建設に際し、世界文化遺産「富岡製糸場」に配慮した対応について |
|                   |                       | (3) PFIなどの事業手法の検討について                 |
|                   |                       | (4) 新庁舎内視察(議会施設含む)                    |
|                   | ・平成30年10月23日(火)       | 2 市役所新庁舎の建設について                       |
|                   | 東京都町田市                | (1) 新庁舎建設の経過について                      |
|                   |                       | (2) 新庁舎の耐震・免震対策について                   |
|                   |                       | (3) PFIなどの事業手法の検討について                 |
|                   |                       | (4) 新庁舎内視察(議会施設含む)                    |
|                   | ・平成30年10月23日(火)       | 3 市役所新庁舎の建設について                       |
| 神奈川県茅ヶ崎市          | (1) 新庁舎建設の経過について      |                                       |
|                   | (2) 新庁舎の耐震・免震対策について   |                                       |
|                   | (3) PFIなどの事業手法の検討について |                                       |
|                   | (4) 新庁舎内視察(議会施設含む)    |                                       |

## 群馬県富岡市

(1)平成22年8月から23年9月まで11回の市民検討委員会。24年3月、基本構想策定。25年に全3回の市民ワークショップ。市民説明会を経て基本設計を策定(4棟方式)。26年3月11日の東日本大震災後の状況を鑑み、基本設計の見直しを翌年まで実施(2棟方式)。27年10月の議会で事業予算の増額議決を経て入札。28年1月、請負契約が議決され、起工式。30年3月落成。

市議会とのやり取りは、「市議会を考える分科会」(議会事務局と議員全員)を組織し、平成24年から協議に入り、全24回の協議を行い議事堂の設備等まで決めている。

(2)耐震・免振にはせず、制震ダンパーを1・2階に3ケづつ採用。

(3)市景観条例があり、14m未満になっている。駅から富岡製糸場までの導線上に、世界文化遺産センターと市役所庁舎がある。庁舎は、木のルーバーで出迎え、アルミのルーバーで夕日を反射させている。

(4)PFIの検討はしていない。

(5)3階建て。庇とルーバーによって、熱負荷を大幅に削減。保湿度と抗酸化力が高い「きびそ」を壁紙に応用。屋根におちる雨水を地下ピット内の雨水貯留槽に貯め、各階のトイレ洗浄水として利用。越屋根と吹き抜けで高低差を利用した自然換気。太陽光パネルで30Kw発電。これら自然を活かしたエコな庁舎に。

1階で8割の来庁者が用を済ませられるように部局を置いている。各課共通の証明書発行窓口を設置している。

天井を設けず、鉄骨も丸見えだが、断熱吹付・耐火塗装を施している。

県住宅供給公社支所も入っている。

議場の傍聴席背面は、ガラス張りになっている。

災害時における防災拠点機能を有している。(収容人員:1000人・飲み水25t・トイレ用水220t・発電能力200KVA)

#### 東京都町田市

(1)1997年5月、「町田市庁舎建設に関わる調査」を行い、耐震・防災・情報拠点機能から庁舎計画の総合的な見直しを行う(新しい土地に新庁舎を)。1999年11月、旧工場廃業地の土地18000㎡を購入。2000年6月、議会に「庁舎等に関する特別委員会」を設置。2001年6月、2002年12月、市民代表・学識経験者等で構成する「庁舎問題検討委員会」設置。2003年8月、議会に「庁舎等検討特別委員会」設置。また、庁舎問題に関する市民アンケート実施。2004年3月、新庁舎を移転新築することに決定。6月、「建設基本構想」策定。2005年5月、「建設基本計画」策定。2007年、全6回の市民参加による「建設基本設計市民ワークショップ」開催。11月、「建設基本設計」完成。2009年7月、「建設実施設計」完成。8月、施工業者決定。10月、建設工事起工。途中で、CM業者が入って2棟を1棟に再設計する(工事費が17億削減された)。2012年3月、竣工。6月、外構工事等全工事終了。7月、開庁。

(2)耐震性能を通常の建物の1.5倍にし、震度7程度の大地震でも安心に。免振装置は無い。

(3)「基本構想」策定後、PFIを検討。会計の問題や市民要望の対応、調査期間が必要になることからPFIは行わないことに。

(4)地上10階地下1階。会議室は全てペーパーレス使用。2階に防災センター。3-1・2・3会議室は、災害時つなげて対策本部に。電気室は、災害時の浸水に備えて2階に。執務室から、3階以上の吹き抜けに熱い空気が抜けていくシステム。屋上を緑化。太陽光パネルで22kwの発電(2階の市民協働スペース用)。市民利用の多い窓口を1・2階に配置。また、総合案内担当職員(コンシェルジュ)を配置。1階に、イベントスタジオも配置。駐車場は、立体駐車場を建設し、指定管理制度を導入。

神奈川県茅ヶ崎市

- (1)平成22年8月、「本庁舎再整備基本方針」策定。「新庁舎基本計画」策定のため、「市民ワークショップ」を開催したり、関係団体と意見交換をする。また、「建設検討会議」を設置。23年12月、「基本計画」策定。24年11月、「基本設計」策定。25年8月、「実施設計」策定。12月、工事着工。27年11月、新庁舎部分のみ引き渡し。隣接の分庁舎との接続工事後、28年2月、竣工。
- (2)免震構造：天然ゴム系積層ゴムを26基、鉛プラグ入り積層ゴムを29基、オイルダンパー8基設置。また、柱頭免震とし、建物周囲には免震側溝を配置。
- (3)PFIは時間がかかるのでしなかった。
- (4)地上7階地下1階。合わせガラスと網入りガラスのペアガラス採用。建物中央に吹き抜けを設けた「両端コア中央吹き抜け形式」。庇とルーバー設置。屋上には、ホバリングスペース設置。30kwの太陽光発電設備設置。敷地内に井戸を設置し、空調熱源・上水・雑用水に利用。
- 1階には、イベントスペースと「市民ふれあいプラザ」を設置。また、「総合案内」の設置とともに目的ごとに定めた色彩を柱及びカウンター上部にサイン表示で案内。4階に、「茅ヶ崎市・寒川町消防指令センター」の消防通信指令室を設置。
- 6階は、議場を含めて議会関係フロアーに。議場は、理事者側と議員側の机を可動して収納することで、議会以外の用途に使用可能に。

平成30年11月24日

松本市議会議長 上條 俊道 様

市役所新庁舎建設特別委員

勝野 智行